

# JACET Kansai Newsletter

No. 84 July 31, 2019

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 植松 茂男 (同志社大学) (Chapter President: Shigeo UEMATSU, Doshisha University)

事務局: 〒602-8013 京都市上京区烏丸通下立売西入 平安女学院大学 香林 綾子 研究室内

(Chapter Office: c/o Ayako KOBAYASHI, Heian Jogakuin (St. Agnes') University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

## 「今、Practitioner Research があつい」

高橋 幸 (副支部長)

梅雨が明けて、暑さが厳しくなってまいりました。本年度より、紀要編集委員会委員長を仰せつかりました副支部長の高橋です。紀要編集委員会は本年度から一新し、新委員として、中田賀之先生(同志社大学)、玉井史絵先生(同志社大学)、笹尾洋介先生(京都大学)がご就任なさいました。また、委員会事務局長を坂本輝世先生(滋賀県立大学)、紀要幹事を妹尾智美先生(立命館大学)がお務めくださいます。偶然ではございますが、全員、京都・滋賀地区のメンバーとなりましたため、勤務先の近さを活かして、密に情報交換や議論を行い、『JACET 関西支部紀要』がよりよいものになるよう尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

昨今とくに教育の質保証が声高に叫ばれ、また質的研究の重要性も改めて認識されるにつれ、Practitioner Research に熱い視線が注がれています。たとえば、*Language Teaching Research* では、2000 年代より Practitioner Research セクションが設けられています。以下に、その投稿要領の一部をご紹介します。

The journal also has a 'Practitioner Research' section, which welcomes articles by practitioners about their own practices and includes findings/insights that are directly related to what they have learned from conducting their research as well as practical applications to the teaching of languages designed specifically for practitioners. (中田先生より情報提供。詳しくは、<https://uk.sagepub.com/en-gb/asi/language-teaching-research/journal201815#submission-guidelines> をご参照ください。)

さらに、近年、国内外で Practitioner Research に関する論文や書籍が数多く出版されております。たとえば、2018 年度の JACET ジョイントセミナー・JACET 国際大会でご講演いただいた Judith Hanks 先生は、2019 年に「From research-as-practice to exploratory practice-as-research in language teaching and beyond」と題する論文を出版され (*Language Teaching*, 52(2), 143–187)、そこで Practitioner Research の概念整理を行い、Exploratory

Practice、Action Research、Reflective Practice、Lesson Studyなどの総称としてとらえることができると言及されています。また、玉井健先生・渡辺敦子先生・浅岡千利世先生は、『リフレクティブ・プラクティス入門』(ひつじ書房, 2019)において、Reflective Practice と Action Research や Lesson Study との違いについて明解な解説をし、その研究の重要性や手法についてご紹介しております。

こうした状況を受けて、紀要編集委員会は、Practitioner Research 関係の投稿を促すためにも、支部紀要の原稿種別の見直しについて議論を進めております。現在、支部紀要には、以下の 3 つの原稿種別がございますが、Practitioner Research をどの種別に投稿するかは簡単には決められないよう思います。

- (1) 研究論文 (大学等における英語教育およびその関連分野に関する学術論文)
- (2) 研究ノート (大学等における英語教育およびその関連分野に関する簡易な学術報告)
- (3) 実践報告 (大学等における英語教育の実践報告。  
ただし、投稿締め切り日を起点として過去 1 年以内に開催された JACET 関西支部大会および国際大会における口頭(ポスター)発表、または、同期間における JACET 関西支部研究会(SIG)での活動に關係する内容に基づくものに限る。)

このうち、(1)や(2)に関して、過去 10 年間の掲載論文を拝見すると、いわゆる「科学的」な分析や考察を含んだ論文が中心になっています。第 21 号 (2019 年 3 月刊行) より新設された(3)の実践報告は、査読はなく、校閲のみとなっております。そのため、投稿しやすく、自分の授業実践ができるだけ早く読者と共有して、フィードバックを得られるというメリットがあります。その一方、簡潔さを求められる傾向があり、支部紀要でも 6 ページ以内にまとめていただいております。柳瀬陽介先生によると、Practitioner Research は複合性・意味・複数性・エンパワーメントといった概念を重んじて、実践者が置かれている複雑な状況を多面的に、そして、忠実に描くこととしても特徴づけられ

るそうです (Yanase, Y. (forthcoming). The distinct epistemology of practitioner research: Complexity, meaning, plurality, and empowerment. *JACET Journal*, 64 (Invited Paper).)。このことを踏まえますと、Practitioner Research を投稿する上で、6 ページ以内という制約はなかなか厳しいようと思われます。

以上より、紀要編集委員会は Practitioner Research の窓口を広げることが必要と考え、紀要の原稿種別や分量の検討を行っています。方針が決まりましたら、ニュースレターなどを通して、会員の皆さんにご報告申し上げたいと存じます。

最後となりましたが、支部紀要第 22 号への投稿受付が始まっております。9 月 30 日締切です。本ニュースレターの「紀要編集委員会からのお知らせ」にも詳細を書いておりますので、ご参考になさってください。Practitioner Research も含めて、会員の皆さんからの積極的なご投稿を心よりお待ちしております。

(京都大学)

## ■ 支部研究会のご案内 ■

関西支部では 11 の研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介します。各研究会では原則として、常時、新入会員の申込みを受け付けておりますので、興味・関心のある研究会がありましたら、お気軽に各研究会の代表者までご連絡ください。また、最新の活動情報は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) にてご確認ください。

The Kansai Chapter has the following 11 Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. According to our policy, they are run as two-year projects, being renewed every two years with new leaders. Please refer to the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/group.html>) for more information, or contact the leader of the SIG in which you are interested.

### ◆ 文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：時岡 ゆかり（大阪産業大学）

ytokioka[AT]las.osaka-sandai.ac.jp

副代表：赤尾 美和（近畿大学）

miwa\_0722[AT]yahoo.co.jp

### ◆ 学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：前川 貴史（龍谷大学）

maekawa[AT]soc.ryukoku.ac.jp

副代表：西脇 幸太（愛知文教大学）

hot\_corner\_55[AT]hotmail.com

### ◆ ESP 研究会 (English for Specific Purposes)

代表：藤枝 美穂（大阪医科大学）

mfujieda[AT]osaka-med.ac.jp

副代表：スミス 朋子（大阪薬科大学）

smith[AT]gly.oups.ac.jp

### ◆ 「海外の外国語教育」研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：米崎 里（甲南女子大学）

michi[AT]konan-wu.ac.jp

副代表：相川 真佐夫（京都外国語大学）

m\_aikawa[AT]kuufs.ac.jp

### ◆ 教材開発研究会 (Materials Development)

代表：仲川 浩世（関西外国語大学短期大学部）

hgaeru[AT]yahoo.co.jp

副代表：赤尾 美和（近畿大学）

miwa\_0722[AT]yahoo.co.jp

### ◆ リスニング研究会 (Listening)

代表：神野 雅代（四天王寺大学）

kanno[AT]shitennoji.ac.jp

副代表：高橋 寿夫

takahashi[AT]cwo2.bai.ne.jp

### ◆ リーディング研究会 (Reading)

代表：鳴田 和美（関西外国語大学短期大学部）

kazumitsutada[AT]gmail.com

副代表：高田 哲朗（京都外国語大学）

thenrytakada[AT]gmail.com

### ◆ ライティング指導研究会 (Writing Research)

代表：川西 慧（武庫川女子大学）

kwns[AT]mukogawa-u.ac.jp

副代表：坂本 輝世（滋賀県立大学）

kiyosakamoto[AT]gmail.com

### ◆ 授業学（関西）研究会 (Developmental Education)

代表：村上 裕美（関西外国語大学短期大学部）

hiromim[AT]kansaigaidai.ac.jp

副代表：工藤 泰三（名古屋学院大学）

taizo[AT]ngu.ac.jp

### ◆ 科学英語教育研究会 (English for Japanese Scientists)

代表：玉田 麻里子（大阪工業大学）

maritama0617[AT]gmail.com

副代表：村尾 純子（大阪工業大学）

giovanni[AT]bcc.bai.ne.jp

副代表：浅野 元子（大阪医科大学）

asanomot[AT]gmail.com

### ◆ アカデミッククリテラシー研究会 (Academic Literacy)

代表：上條 武（立命館大学）

tkamijo[AT]fc.ritsumei.ac.jp

副代表：長尾 明子（龍谷大学）

nagao[AT]world.ryukoku.ac.jp

## ■ 2019 度第 1 回支部講演会の報告 ■

2019 年度第 1 回支部講演会が、2019 年 6 月 22 日（土）に、神戸国際会館にて開催されました。38 名の

参加者があり、盛況となりました。豊橋技術科学大学の井佐原均先生に、ディープラーニングで進化する機械翻訳についてお話を伺いました。2016年以降、機械翻訳の性能はよくなっているけれども、訳の抜けや誤りが発生することはあるし、英語の翻訳だけを見ていると、間違いに気がつきにくい、などの問題もある、と言うことでした。テクノロジーは我々の生活を便利にする道具だけれども、使いこなせる能力を持つことが重要だと改めて感じました。

1. 日時：2019年6月22日（土）15:30～17:00
2. 会場：神戸国際会館 704号会議室
3. 演題：ディープラーニングで進化する機械翻訳：何ができる、何ができないか
4. 講師：井佐原 均 先生（豊橋技術科学大学情報メディア基盤センター長）

The Kansai Chapter First Lecture Meeting of the 2019 was held on Saturday, June 22nd, 2019, at Kobe International House with 38 participants. The professor, Hitoshi Isahara talked about evolving machine translation. Since 2016, the new machine translation system has improved in quality; however, there are still some problems. For example, occasionally some words are not translated. Their translations can contain mistakes. It is often difficult to notice mistakes when looking at only English translations. Technology is a tool to make our lives more convenient, but I felt that it is important to have the ability/skills to use it.

1. Date: Saturday, June 22, 2019, 15:30–17:00
2. Venue: Room 704, Kobe International House
3. Title: Evolving Machine Translation Using Deep Learning: What You Can Do with It
4. Lecturer: Hitoshi Isahara (Professor, Toyohashi University of Technology)

## ■ 2019度第2回支部講演会のお知らせ ■

2019年度第2回支部講演会は、下記の通り、JACET関西リーディング研究会による講演を予定しております。支部の研究会の活動を知る良い機会です。皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 日時：2019年10月5日（土）15:30～17:00
2. 会場：同志社大学今出川キャンパス 明徳館1階（M1教室）  
(<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>)
3. テーマ：大学における多読指導を再考する：多読

指導における教員の役割とは

4. 演題と講師：
  - (1) 「基本に戻って多読を成功 “Top ten principles for teaching extensive reading”」  
高瀬 敦子 先生（関西学院大学）
  - (2) 「成功する多読を導く環境の構築を目指して：Engaged Reading モデルの観点から」  
吉田 弘子 先生（大阪経済大学）
  - (3) 「多読指導のゴールとは？：ポスト多読を見据えた指導を考える」  
吉田 真美 先生（京都外国语大学）
5. 司会：鳴田 和美 先生（関西外国语大学短期大学部）
6. 概要：近年、大学英語教育において、多読指導が多くの教育機関でプログラムとして導入されているが、教師の注意は学習記録の管理や、評価に向けられ、学習者も到達目標に達することばかりにとらわれて、本来の多読指導の効果が見失われてしまっている場面が散見される。そこで多読指導において、何を最優先に配慮すべきなのか、教員はどのような役割を果たすべきなのか、何のための多読指導であるべきなのか、という多読指導の基本方針を再考したい。
7. 参加費：JACET会員は無料、非会員は500円。  
事前申込不要
8. 使用言語：日本語。質疑応答では英語も可
9. 茶話会：講演会後に茶話会（ノンアルコール、1時間程度）を予定  
詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) をご覧ください。

## Kansai Chapter Second Lecture Meeting of AY 2019

The Kansai Chapter Second Lecture Meeting of the 2019 academic year will be conducted by the Reading SIG as follows:

1. Date: Saturday, October 5, 2019, 15:30–17:00
2. Venue: Doshisha University, Imadegawa Campus Meitokukan Building 1F (Room M1)  
(<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>)
3. Theme: What Is the Teacher's Role in a University Extensive Reading Program?: Back to the Basics
4. Titles & Speakers:
  - (1) Revisit ‘Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading’  
Dr. Atsuko Takase (Kwansei Gakuin University)
  - (2) Toward Creating Critical Instructional Context for Successful Extensive Reading

- Dr. Hiroko Yoshida (Osaka University of Economics)
- (3) Bridges to Reading Ungraded Novels: What and How Can L2 Readers Read After Extensive Reading?  
Dr. Mami Yoshida (Kyoto University of Foreign Studies)
5. MC: Dr. Kazumi Tsutada (Kansai Gaidai college)
6. Abstract: Because it can provide massive amounts of comprehensible and meaningful English input for learners of English as a foreign language (EFL), extensive reading (ER) has been widely accepted at various institutions in Japan as an effective instructional option of a curriculum or individual English class. However, many ER teachers seem to be preoccupied with engaging in managing and monitoring students' reading records, such as reading logs and the M-reader system, neglecting important principles as reading teachers. This session will raise such issues such as what roles teachers should prioritize and how to identify the purpose for which extensive reading is being conducted, in order to produce the most effective student learning outcomes.
7. Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register.
8. Main language: Japanese for presentation. English & Japanese in the Q&A session.
9. Party: Please join us for a one-hour gathering with soft drinks and light snacks after the lecture.

Details are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

## ■ 2019度第3回支部講演会のお知らせ ■

2019年度第3回支部講演会は、下記の通り、JACET関西リスニング研究会による講演を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org>) にて、後日ご案内申し上げます。

日時：2020年3月14日（土）15:30～17:00（予定）  
場所：関西学院大学梅田キャンパス  
内容：関西支部 リスニング研究会

## Kansai Chapter Third Lecture Meeting of AY 2019

The Kansai Chapter Third Lecture Meeting of the 2019 academic year will be conducted by the Listening SIG as

follows:

1. Date: Saturday, March 14, 2020, 15:30–17:00
2. Venue: Kwansei Gakuin University, Umeda Campus

Details will be available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>) at a later date.

## ■ JACET 第58回国際大会のお知らせ ■

2019年8月28日（水）から30日（金）まで名古屋工業大学にて第58回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：「ボーダーレス」の先に—変革する社会における英語教育

日程：8月28日（水）～8月30日（金）

場所：名古屋工業大学

〒466-8555 愛知県名古屋市昭和区御器所町

要旨：「ほんの小さい鍵が重い扉を開けることだってあるのだ」(C. ディケンズ 小池・石塚訳『ディケンズ短編集』)

社会の変革とともに発生する力学は教育全般に影響を与える。社会の変化はとりわけ言語教育に大きな影響を及ぼしてきた。経済発展の必然から始まったグローバル化は、現在の世界の常態となり、テクノロジーが急進する世界において、従来の枠組みを決定していた境界線は様々な場面で融解しているように見える。国境を越えた文化の滲出や、学問分野における学際的研究の進展はあらゆる面で「ボーダー」を曖昧にする。そのような世界にあって、英語教育に求められる流動性や柔軟性はどのように捉えられるべきだろうか。伝統と技術革新のせめぎあいから引き起こされる緊張や、学問分野における理論と実践、アカデミズムと現実社会の往来に英語教育はその方向性をどこに見出していくのか。

大学英語教育学会（JACET）第58回国際大会（名古屋、2019）は、このような境界の曖昧性が進んだ結果生まれつつある「ボーダーレス」社会の先を見据えた英語教育について考える機会を提供し、目指すべき方向性やその意義について研究者や実践者のためのフォーラムの場としたい。AI ロボットが人間とコミュニケーションするようになり、近未来において、生身の英語教員の意義や役割は何なのか、教室でのテクノロジーの関わりや、コミュニケーションそのものの変容はあるのか。「ボーダーレス」の先にある‘trans’ paradigmaticな世界の中における英語教育は、その小さな部分かもしれない。しかし「ほんの小さい鍵が重

い扉を開けることだってある」のである。

詳細は、第 58 回国際大会ホームページ(<http://www.jacet.org/convention/2019-2/>)をご覧ください。

## The JACET 58th International Convention

Theme: Beyond ‘Borderless’: English Education in a Changing Society

Date: Wednesday, August 28—Friday, August 30, 2019

Venue: Nagoya Institute of Technology, Gokiso-cho,  
Showa-ku, Nagoya, Aichi, 466-8555 JAPAN

Abstract: ‘A very little key will open a very heavy door’  
(Charles Dickens, 1812-1870)

It is imminent that societal forces in one way or another have an impact on language education in general. In our contemporary society characterized by globalization and technology, there is an increasing movement among the various disciplines, nations, and cultures to transcend borders or boundaries. Under such circumstances, how can we accommodate and understand the fluidity and flexibility required to embrace diversity? How do we account for the tension created as we move from traditions and innovations, theory and practice, and even the academic sphere and business world?

The 58<sup>th</sup> JACET International Convention (Nagoya, 2019) will provide stimulating forum for researchers and practitioners to collectively rethink the directions and significance of current English language education in a world where the implications of borders and boundaries are controversial. For instance, in an era where AI robots are capable of human-like communication, what will be the role of human teachers? What are the issues and challenges in incorporating technology into our classrooms? Will there be changes in our communicative practices and interactions? The objective of the conference is to gather together to develop and share broad perspectives on English education in order to achieve the educational goals sought in this ‘trans’ paradigmatic world. The heavy door of the future awaits.

For details, please visit the 58th International Convention website (<http://www.jacet.org/convention/2019-2/>).

## ■ 2019 年度関西支部大会のお知らせ ■

2019 年度の関西支部大会を以下の要領で開催します。

日程：2019 年 11 月 16 日（土）

場所：同志社大学 今出川キャンパス

大会テーマ：変化の時代を生きる英語教育

基調講演：久保田 竜子 先生

（ブリティッシュコロンビア大学教授）

「英語教育における言語イデオロギーを問う」

特別講演 I : 柳瀬 陽介 先生（京都大学教授）

“Emotions, values, and stories -- Against the standardization to monetize English Language Teaching”

特別講演 II : 寺沢 拓敬 先生（関西学院大学准教授）

「外国语教育政策研究の理論・方法（仮）」

企画シンポジウム：

羽藤 由美 先生（京都工芸繊維大学教授）

神澤 克徳 先生（京都工芸繊維大学助教）

光永 悠彦 先生（名古屋大学准教授）

「大規模スピーキングテストの舞台裏、どこがどう難しいのか？—京都工芸繊維大学の実践より」

## 研究発表申込：7月1日（月）～9月7日（土）

支部ホームページ(<http://www.jacet-kansai.org/>)から、WEB フォームでお申し込みください。教員だけでなく、大学院生の会員による応募も歓迎です。

### <<申込要項>>

1. 発表は、英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限る
2. 発表者（共同発表者を含む）は、JACET会員に限る（申込時点で会員資格が必要）
3. 発表言語は、日本語または英語
4. 発表種別・時間は、以下の通り
  - ワークショップ：発表者は1名～数名。参加者によるタスク活動を含む。90分
  - コロキアム：発表者は数名。特定のテーマについての議論を行う。90分
  - 研究発表：理論的、実証的な研究成果を発表。30分（発表20分+質疑10分）
  - 実践報告：授業実践やカリキュラム改革に関する報告。30分（発表20分+質疑10分）
  - ポスター発表：研究・実践の内容について発表し、参加者と議論する。（コアタイム60分）
5. 応募に際して必要な情報
  - a) 発表形式：ワークショップ、コロキアム、研究発表、実践報告、ポスター発表の別
  - b) 発表題目：日本語および英語、英語はタイトルの各単語をキャピタライズ
  - c) 発表者情報：氏名（漢字とローマ字）、所属（日本語と英語）、E-mailアドレス（共同発表者は氏名と所属のみ）

d) 発表に使用する言語：日本語または英語

e) 使用希望機器

#### **発表要旨**

- a) 内容：「研究発表」の場合は、背景、目的、リサーチクエスチョン（仮説）、方法（対象・内容・期間等）、結果、考察を、「実践報告」の場合は、背景、方法、（結果、）考察を簡潔に書く。「ポスター」の場合も扱う内容に応じて、これらに準ずる。「ワークショップ」「コロキアム」は目的、対象、手法を詳しく記す。いずれの場合も引用文献リストは要旨に含めない。

b) 分量：日本語400字～600字 または 英語200～300 wordsとする。

6. 審査は、支部研究企画委員会にて行う。
7. 審査結果は10月2日（水）以降にE-mailにて通知する。必要に応じてフィードバックを行う。
8. 審査結果通知後の辞退は原則としてできない。

### **Kansai Chapter 2019 Conference**

The Kansai Chapter 2019 Conference will be held as follows:

Date: Saturday, November 16, 2019

Venue: Doshisha University, Imadegawa Campus

Conference Theme: English Language Education in a Time of Rapid Change

Keynote Lecture: Prof. Ryuko Kubota (University of British Columbia)

“Questioning Language Ideologies in English Language Teaching”

(to be presented in Japanese)

Special Lectures I: Prof. Yosuke Yanase (Kyoto University)

“Emotions, Values, and Stories -- Against the Standardization to Monetize English Language Teaching”

Special Lectures II: Dr. Takunori Terasawa (Kwansei Gakuin University)

“Theory and Methodology in Policy Research of Foreign Language Education (provisional)”

(to be presented in Japanese)

Symposium: Prof. Yumi Hato (Kyoto Institute of Technology), Dr. Katsunori Kanzawa (Kyoto Institute of Technology), Dr. Haruhiko Mitsunaga (Nagoya University)

“Behind the Scenes of Large-scale Speaking Tests. What is the Reality?: A Report from the Practice of Kyoto Institute of Technology”

(to be presented in Japanese)

### **Call for Papers:**

**Monday, July 1 – Saturday, September 7, 2019**

We welcome presentation proposals from all members, including student members. A web-based proposal form is available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/>). Come and share your work with the JACET community!

The conditions and procedures for proposals are as follows:

1. Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
2. Prospective presenters (both representative presenters and collaborators) must be JACET members at the time of submission.
3. The language for presentation should be either English or Japanese.
4. Presentation types and time allotments are as follows:
  - Workshops: Presenter(s) will guide participants in specific tasks. 90 minutes.
  - Colloquia: Each presenter gives a presentation followed by discussion among the presenters and with the floor. 90 minutes.
  - Research papers: Presenter(s) will describe theoretical or empirical research. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).
  - Practical reports: Presenter(s) will describe classroom activities or ELT curriculum innovation. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).
  - Poster presentations: Presenter(s) will participate in one-on-one discussion of research or practical report using a poster. (core time 60 minutes).
5. Information requested in the Application form
  - a) Type of proposal: research paper, practical report, poster session, workshop, or colloquium.
  - b) Title of proposal: English and Japanese. When writing in English, capitalize the first letter of each word.
  - c) Information about applicant(s): representative presenter; name, affiliation, e-mail address, collaborators; name and affiliation.
  - d) Language for presentation: English or Japanese.
  - e) Equipment required.
6. Abstract:
  - a) For a research paper, describe the background, purpose of the study, research question(s)

[hypothesis(-eses)], research method(s) (participant characteristics, details, terms, and so on), results, and discussion. For a practical report, give the background of the report, research method(s) (participant characteristics, details, terms, and so on), (results,) and discussion. Do not include references in the abstract.

- b) Should be 200-300 words if in English or 400-600 characters if in Japanese.
  - 6. The proposals will be peer-reviewed by the Research Planning Committee.
  - 7. Review results and feedback, as necessary, will be sent after October 2.
  - 8. Cancellation after the acceptance of the presentation is not permitted in principle.
- 

JACET Kansai Chapter Research Planning Committee  
jacetskansaiconf@gmail.com

### ■ 紀要編集委員会より ■

今年度刊行の第 22 号支部紀要是、研究論文、研究ノート、さらに投稿締め切り日を起点として過去 1 年以内に開催された JACET 関西支部大会や JACET 国際大会で発表した内容や、各研究会の活動に基づく実践報告を募集しています。研究・実践の成果を多くの皆さんと共有していただくために、ぜひ奮ってご投稿ください。執筆に際し、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/submission.html>) に掲載されている投稿用テンプレート (WORD) をそのままご使用いただけましたら幸いに存じます。

投稿期限：2019 年 9 月 30 日（日）午後 11 時 59 分

論文送付先：紀要編集委員会 事務局長  
坂本 輝世（滋賀県立大学）  
jacetskj [AT] gmail.com

提出方法：[オンライン投稿フォーム](#)からの申込と、電子メールによる添付ファイルの送付（投稿原稿（WORD および PDF）、書式チェックシートの計 3 ファイル）

- ※ 受領後 3 日以内に事務局より確認の返信が届きます。万一、3 日経っても返信が届かない場合には、上記のメールアドレスにお問い合わせください。
- ※ 提出方法の詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/index.html>) をご覧ください。

主な日程：

2019 年 9 月 30 日（必着） 投稿原稿締切  
12 月 1 日 審査結果通知  
2020 年 3 月 31 日 刊行

### JACET Kansai Journal Call for Papers

Kansai Chapter members are welcome to submit manuscripts for publication in the *JACET Kansai Journal (JKJ)*, No. 22.

Papers should be related to research on English education at the tertiary, secondary, or earlier levels, as well as other relevant areas. The JKJ accepts “Research Papers” and “Research Notes.” Also, we especially welcome “Practitioner Reports,” which include reports on activities of JACET Kansai SIGs occurring within one year prior to the submission deadline, as well as reports on the content of oral or poster presentations at a JACET Kansai Chapter Convention or a JACET International Convention which was made within one year prior to the submission deadline. Please check the submission guidelines and use our template for preparing your manuscript. They are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/submission.html>).

Submission deadline: September 30, 2019, 23:59 (JST)

Submission to: JACET Kansai Journal Secretariat,  
Ms. Kiyo Sakamoto (University of Shiga  
Prefecture)  
jacetskj [AT] gmail.com

Submission procedures:

First, complete [a submission form](#) on the JACET Kansai website. Then send **three files** by email to the Secretariat that contain the author manuscript as a WORD document, an additional copy as a PDF, and a format checklist prepared by the JKJ Editorial Committee.

- ※ If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please email the Secretariat to request confirmation.
- ※ For further information regarding the submission procedures, please see the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

Important dates:

Deadline for manuscripts: September 30, 2019

Announcement of editorial decision: December 1, 2019

Publication: March 31, 2020

## ■ 事務局より ■ Messages from the Kansai Chapter Office

本年度の JACET 国際大会は、8月 28 日（水）から 30 日（金）まで、名古屋工業大学で開催されます。また、本年度の JACET 関西支部大会は、11月 16 日（土）に同志社大学今出川キャンパスで開催されます。どちらも奮ってご参加ください。

### ■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配達やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、必ず本部事務局（[jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)）までご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。

特に、支部からの案内メールが宛先不明で数多く戻ってまいります。ご登録のメールアドレスをご確認ください。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to the JACET Main Office ([jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)).